

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成28年12月1日(2016.12.1)

【公表番号】特表2015-534949(P2015-534949A)

【公表日】平成27年12月7日(2015.12.7)

【年通号数】公開・登録公報2015-076

【出願番号】特願2015-536925(P2015-536925)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 P	37/04	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
C 0 7 K	14/47	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 1 2 N	15/113	(2010.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	31/00	
A 6 1 P	31/12	
A 6 1 K	39/395	N
A 6 1 K	39/395	U
A 6 1 K	39/395	S
A 6 1 K	39/395	T
A 6 1 P	37/04	
A 6 1 K	31/7088	
C 0 7 K	14/47	Z N A
C 1 2 N	15/00	A
C 1 2 N	15/00	G

【手続補正書】

【提出日】平成28年10月11日(2016.10.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

治療に使用するための、CEACAM1阻害剤、PD1阻害剤、および／またはLAP阻害剤のうちの少なくとも2つの剤の治療的有効量を含む、治療用の組み合わせ。

【請求項2】

(i) 対象における免疫応答を増強する、および／もしくはT細胞寛容を低下させるための、または(ii)慢性疾患の処置のための、請求項1記載の治療用の組み合わせ。

【請求項3】

前記慢性疾患が、がん；持続感染；および慢性ウイルス感染からなる群より選択される

、請求項2記載の治療用の組み合わせ。

【請求項4】

前記少なくとも2つの剤が、

(i) CEACAM1阻害剤およびPD1阻害剤、

(ii) CEACAM1阻害剤およびLAP阻害剤、

(iii) PD1阻害剤およびLAP阻害剤、または

(iv) CEACAM1阻害剤、PD1阻害剤およびLAP阻害剤

である、請求項1～3のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項5】

(i) 同時にCEACAM1、PD1および／もしくはLAPのうちの少なくとも2つと物理的に接觸し、かつ該少なくとも2つを阻害することが可能な分子を含む、二重特異性阻害剤、

(ii) CEACAM1阻害剤である第1部分およびPD1阻害剤である第2部分を含む、二重特異性剤、

(iii) CEACAM1阻害剤である第1部分およびLAP阻害剤である第2部分を含む、二重特異性剤、または

(iv) LAP阻害剤である第1部分およびPD1阻害剤である第2部分を含む、二重特異性剤を含む、請求項1～4のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項6】

前記阻害剤の1つもしくは複数が阻害核酸である、および／または前記阻害剤の1つもしくは複数が抗体試薬であり、任意で、該抗体試薬が、CEACAM1；PD1；およびLAPからなる群より選択される標的を結合し、任意で、該抗体試薬が、標的によって媒介されるシグナル伝達を阻害する、請求項1～5のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項7】

前記CEACAM1阻害剤が、SEQ ID NO:32に記載の配列を有するCEACAM1分子、またはSEQ ID NO:32の対立遺伝子変種もしくはスプライス変種を結合する、請求項1～6のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項8】

前記CEACAM1阻害剤が、CEACAM1リガンド相互作用部位を結合し、任意で、該CEACAM1阻害剤が、SEQ ID NO:32のアミノ酸残基番号1～429のいずれかに対応するアミノ酸残基に結合する、請求項1～7のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項9】

前記CEACAM1阻害剤が、CEACAM1の細胞外ドメインを結合する、および／または前記CEACAM1阻害剤が、CEACAM1のホモフィリックな相互作用ドメインを結合し、かつCEACAM1分子のホモフィリックな相互作用を阻害する、請求項1～8のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項10】

前記PD1阻害剤が、SEQ ID NO:1に記載の配列を有するPD1分子、またはSEQ ID NO:1の対立遺伝子変種もしくはスプライス変種を結合する、請求項1～9のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項11】

前記PD1阻害剤が、PD1リガンド相互作用部位を結合し、任意で、該PD1阻害剤が、SEQ ID NO:1のアミノ酸残基番号41～136のいずれかに対応するアミノ酸残基に結合する、請求項1～10のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項12】

前記LAP阻害剤が、SEQ ID NO:34に記載の配列を有するLAP分子、またはSEQ ID NO:34の対立遺伝子変種もしくはスプライス変種を結合する、請求項1～11のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項13】

前記LAP阻害剤が、LAPリガンド相互作用部位を結合し、任意で、該LAP阻害剤が、SEQ ID NO:33のアミノ酸残基番号218に対応するアミノ酸残基に結合する、請求項1～12のいず

れか一項記載の治療用の組み合わせ。